



市の教育政策と地域政策の連携について

問 小中一貫教育の導入効果を伺う。

【答】 義務教育の9年間を一体的に捉え、学校と家庭、地域が連携することの一貫性のある指導が可能となる。中1ギャップの緩和につながり、学習意欲向上や自己肯定感の醸成、社会性の育成などの効果を期待している。

問 東三河初の義務教育学校である西浦学園の特色を伺う。

〔答〕 9年間を発達段階に応じたステージに分け、基礎の定着から協働的学び、主体的に行動する力の育成へとつなげる教育課程を編成している。また、英語教育、地域学習、プロジェクト教育を三本柱にした「グローバル教育」を展開し、地域



資源の活用や異世代交流も推進していく。

問 地元地域を大切に
しつつ、市内全域を学
ぶ教育をどのように進
めるのか。

【答】 学校間の取組の共有や研修を通じ、相互学習の機会を広げていく。子どもたちがより広い視野でふるさとの理解と愛着を深めるようつなげたい。

問 小中一貫教育の展開を、移住定住施策やシティセールスの中でどう活かし子育て世代に選ばれるまちづくりにつなげていくのか。

【答】 市ならではの教育制度を積極的に打ち出し広報することで、移住定住につなげたい。



水道事業の広域化について

問 東三河の水道事業の広域化状況を伺う。

〔答〕平成25年度から、愛知県水道広域化研究会議において、豊橋市を中心に各事業体で連携可能な業務等を検討してきた。その後令和8年1月に、愛知県と東三河8市町村で構成される豊川流域上下水道広域連携協議会（仮称）準備会が設立され上下水道事業の広域化における一本化の方向性を始め、期待される効果を検討している。

(仮)浅井新田鬼越1号線
新設事業の進捗について

問 完成時期について伺う。

【答】 来年度以降に補償額を決定し、地権者と用地補償交渉に臨む予定である。できるだけ



早期の完成に向けて事業を進めていきたい。

形原編笠鹿島中郷1号線
及び深田中郷1号線

問 早期の全線着手に
ついて伺う。

【答】本市では3年度よりセツトバック用地等の確保と整備を促進するため、狭あい道路整備等促進事業を実施している。3年度以前に建物を建築し、セツトバック用地を自己管理している人からも、寄附を受けることは可能であるため、過去の物件についても、ホームページの掲載内容を見直すなど寄附に協力してもらえよう、積極的に周知をしていく。



豊岡大塚線の凍結解除に向けた進捗について

問 現時点で再開に向けたシナリオはどう考えているか伺う。

答 事業を再開するには費用対効果が見込めるかどうかが重要である。まずは、庁内の関係各課との議論を深め、事業の必要性等の観点から、事業評価を行う必要があると考える。

中日ドラゴンズ2軍
拠点の誘致について

問 仮に海陽町に2軍本拠地の誘致ができた時の本市の活性化等についての考えを伺う。

【答】 交流人口の増加や大きな集客効果が期待でき、地域及び地域経済の活性化等に大きく寄与するものと考えられる。さらに、東三河地域・静岡県西部など広域におけるドラゴン



ズファンが蒲郡を訪れるきっかけとなり、地域活性化が見込まれる。

戦没者慰霊平和塔の
解体について

問 平和塔をなくしてしまふことは、戦没者遺族・市民の精神的な支柱が風化していきかねない。戦没者の冥福を祈る慰霊の形のものがあるべきと考えるが、市の考えを伺う。

【答】 平和塔がなくなることは大変残念だが、解体後は戦没者への追悼と世界の恒久平和を祈念するためのエリアやモニュメントを設けることについて、関係者と協議・検討していく。